

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://seaclub.power.co.jp/
E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
J F 香川漁連

県内産養殖ノリ初入札

2002年度の県内産養殖ノリ(乾ノリ)が12月4日、高松市瀬戸内町の本会海苔共販所で、県内外から買い付け業者約70人が集まり初入札会を開催した。

今年の出荷枚数は、前年並みだったものの、少雨の影響で例年になく品質が悪く、一枚当たりの平均価格は8円10銭で、初入札会としては、本会共販始まって以来の低価格となった。

初入札には、9漁協から約2,174万枚が出され、等級別に仕分けたノリの見本を、商社は手に取って色やつやを念にチェックし、電気コンロであぶって焼き色を見たり、試食して味や食感を確かめながら希望価格を記入していた。一枚当たりの平均価格は、昨年に比べ5円55銭安、総販売額は約1億76百万円で、昨年より約1億円減った。

次回からは、栄養塩もやや回復傾向にあり、すっ

きりした物も出品されそうである。初入札は島嶼部中心であったが、陸地部の生産も始まり、14日の第2回共販は7千万～8千万枚が上場されると共販事業部では予想しているが、全浜の製品が出揃うのは3回目の12月24日の共販からと見込んでいる。

なお、本年度の生産目標を8億8,620万枚と設定し、3月末までに計10回の入札を実施する予定で、今後の品質の回復を期待し、豊作を祈念したい。



新ノリの初入札会

養殖魚の品質基準づくり推進！ 安全で安心な水産物の供給！

平成14年度主要市場懇談会(京浜地域)開かれる

平成14年度香川県・香川県漁業協同組合連合会・(社)香川県水産振興協会共催の主要市場懇談会が11月22日築地市場内の厚生会館で行われた。

真鍋知事をはじめ一行は、早朝5時より築地市場の水産物の入荷とセリ状況を視察し、午前7時30分より市場卸5社の代表者と懇談会を開催した。

開会にあたって、まず、香川県の真鍋武紀知事が「食品の安全性が消費者の間で高まっているなか、常に消費者に安心・安全を与える製品をつくって行きたい」と挨拶するとともに、ハマチ・タイなどの養殖魚の品質基準作りを積極的に進めていきたいと話をした。

続いて、市場卸関係者の代表として、東都水産㈱の関本幸也社長は「安心・安全な商品作りに関して香川県はトレーサビリティにも力を入れて取り組んでいるので安心している」と話をした。

懇談会では、最初に県から香川県の水産業の概要が説明され、漁連・かん水組合等からは「養殖魚の安心・安全という観点から香川県独自でガイドラインを設けていること」などの説明があった後、意見

交換に入った。

意見交換のなかで、市場卸関係者からの要望は「トレーサビリティを徹底させること」「端境時期の出荷の安定を図ること」「相場変更をする時は、事前に担当者らと調整を図ること」などが出され、有意義な意見交換が行われた。

最後に、服部県漁連会長から閉会の挨拶があり「今後も消費者の求める安心・安全な魚づくりに心がけ、安定供給に努めること」を約束して懇談会を閉じた。



築地市場香川産ハマチ・カンパチ等の視察

東京で香川のハマチPR

香川県・JF香川漁連・JA香川県などは11月21日、東京都足立区のイトーヨーカドー(株)竹の塚店で、香川県産農林水産物のPRキャンペーンを展開した。本会東京支所はブリの切り身などを販売した。また、(社)香川県水産振興協会は、来店者約300名を対象に「さぬき出世鍋の試食会」及びアンケートと、34種類の魚をイラストしたおさかなシャトル号を使ったお魚ビンゴゲームを行いキャンペーンムードを盛り上げた。

さぬき出世鍋の試食会は、大盛況で「ブリをしゃぶしゃぶで食べるなんて初めてだ。ちょっと脂がぬけて美味しく食べられるネ!」とか「ここで売ってるの!」などの声が何度もかけられた。

JA香川県は、香川の特産農産物「Kブランド」をPRする他、レタス鍋試食会やキウイフルーツや金時ニンジン等の産地紹介も行っていった。他に特設コーナーで、さぬきうどんの手打ち実演及び試食会が催された。

真鍋県知事、服部県漁連会長、嶋野県かん水組合長も駆けつけ、買い物客に「食べるイリコ」や「みかん」をプレゼントし、香川県産品の魅力をアピールした。イトーヨーカドー(株)竹の塚店のスタッフ、来店者にも香川県産農林水産物は好評で、今後の販路拡大が期待できるキャンペーンであった。



香川県産ブリの販売コーナー

華やかに「JF全国おさかなまつり」

JF全国おさかなまつりが22日～24日まで、千葉県幕張メッセで開催された。初日の開場を前に行われたセレモニーで、植村正治JF全漁連会長は「全漁連は戦後の食料供給を支え、このたび五十周年を迎えた。その間に日本は、水産物を食べて世界一の長寿国となった。日本では、周囲の日本海、

太平洋から毎朝、新鮮な魚が水揚げされる。今回、全国の魚を一堂に集め、浜の料理が披露される。浜の母さんが特別に手作りする料理を堪能し、魚に接してほしい。私たちは、安全・安心な魚を供給することを大切なことと心得て、漁獲の方法に取り組んでいく」と、挨拶の言葉を述べた。

テープカットでは、女優でマリンバンクのイメージキャラクターを長く続けている榊原郁恵さんを中心に、植村会長、川口恭一水産庁次長ら多くの関係者が参加、華やかにおさかなまつりの開場を祝った。

開場直後から新鮮な水産物が食べられるとあって、多くの来場者で溢れていた。香川県からは、庵治漁協の岡田専務を筆頭に庵治漁協婦人部5名が「庵治漁協活き活き日曜市」で大好評のえび、いか、たこの天ぷらの実演販売を行い、瀬戸内の小魚の旨さをPRした。

また、移動交流ふれあい事業の一環として、おさかなシャトル号を使って、3日間で8回のおさかなビンゴゲームを実施しお祭りムードを盛り上げ、ビンゴの賞品に香川県産ちりめんセットを使い消費拡大のPRに努めた。



大勢の来場者で賑わうJF全国おさかなまつり会場

資源の回復で豊かな浜を!

組合員の期待に応えるJF改革の断行!

全国漁協代表者集会開かれる

JF全漁連は11月22日、「全国漁協代表者集会」を千葉県のホテルニューオータニ幕張で開き、JFグループの事業・組織・経営改革に向けた運動方針を採択したほか、特別決議を行った。

集会は、全国の漁協代表者600人が参集するなか午後1時、菅原昭JF全漁連副会長の力強い開会宣言「資源の回復で豊かな浜を、JF組合員の期待に応えるJF改革の断行をテーマに全国漁協代表者集会を開会する」で始まった。JF強化本部長宮原

邦之 J F 全漁連常務の総合司会のもと、はじめに植村正治 J F 全漁連会長が「振り返れば、厳しさを増す環境の中で、J F グループは新たな日韓・日中漁業協定の締結といった漁業界にとって歴史的課題を解決するとともに、水産基本法という関係者の悲願も達成して参りました。代表者集会に向けて、全国各地で検討を重ねてきた運動方針は、J F グループ自らにも大きな課題を課するものとなりますが、幾多の困難に打ち克って来た我々 J F グループが不退転の決意で望めば決して実現可能な課題ではないと確信しています」と開会挨拶を述べ改革の決意を明らかにした。

続いて大島理農水大臣等の来賓挨拶の後、議事へと進んだ。まず、北島哲夫 J F 全漁連副会長 (J F 北海道漁連会長) が運動方針 (案) を提案、続いて木山光夫 J F 下関ひびき組合長が「山口県下 1 漁協合併を前倒し実現する」と決意表明した。また、岡田和子 J F 全国女性連合会副会長 (香川県漁婦連会長) が「浜の女性が、これまでも漁業・漁協経営を支えてきたことを述べ、J F グループ改革への女性の参画」を力強く訴えた。

意見表明の後、総合司会の宮原常務が運動方針 (案) の採択を議場に諮ると満場の拍手によって運動方針は採決された。

引き続き、特別決議として「合併促進法の延長に関する特別決議」「J F マリンバンクの健全性・信頼確保に関する特別決議」「W T O 交渉に関する特別決議」が提案され、満場の賛同で決議された。

全ての議事を終了した全国漁協代表者集会は、佐藤吉明 J F 全漁連副会長 (J F 静岡漁連会長) の閉会のことばで幕を閉じた。

「第 22 回全国豊かな海づくり大会」

長崎県 佐世保市

1 1 月 1 7 日長崎県佐世保市において、天皇・皇后両陛下をお迎えし、「ゆめ・未来ひらく豊かな海づくり」を大会テーマに、第 22 回全国豊かな海づくり大会が開催された。本県からは、サンポート高松で開催予定の第 24 回大会を控え、総勢 42 名 (うち、水産関係団体より服部県漁連会長ほか 15 名) が参加した。

今大会は、式典会場が大会史上初めて屋内施設である文化ホール“アルカス SASEBO”を使用して開催され、放流行事はバスで 15 分ほど離れた“西海パールシーリゾート”で行われた。式典は、川端 J F

長崎漁連会長の開会のことばで始まり、綿貫大会会長 (衆議院議長) 鈴木善幸特別顧問、金子長崎県知事の挨拶、光武佐世保市長の歓迎のことばと続いた。

この後、天皇陛下からおことばを賜った後、表彰行事に引き続き植村大会推進委員会会長 (J F 全漁連会長) が、大会決議を朗読し満場の拍手とともに採択された。金子長崎県知事より次回開催地の澄田島根県知事に大会旗が手渡され、加藤長崎県議会議長が閉会のことばを述べて式典は終了した。

放流会場の西海パールシーリゾートは、風光明媚な九十九島に面した観光船が発着する既設のリゾート施設を利用しており、穏やかな晴天に恵まれた中、お着きになられた天皇・皇后両陛下は、漁船 35 隻が繰り広げる海上パレードをご覧になられた後、トビウオ・マダイ・イサキ・カサゴ・トラフグ・アカアマダイの稚魚を放流。続いて、アワビ・アカウニの稚貝等を漁業後継者夫婦にお手渡しされ、放流船をお見送りになり、行事を終了した。

アトラクション会場では、テーマ館において大学・水産試験場・海洋開発関係業者の展示等が行われた。また、「ながさき特産品市場」の大テントでは、J F 長崎漁連加工課、漁協婦人部などが塩ワカメ・煮干・カワハギ・サザエ等を販売していた他、長崎のブランド魚としてマアジ・タチウオ・アカアマダイ・アカムツ・イサキ・養殖ブリ・養殖クロマグロ (対馬産) 等が鮮魚で直売されていた。また、県漁業士連絡協議会は「長崎県の漁具・漁法コーナー」で長崎県の様々な漁具や漁法を展示、県漁婦連は「浜の母ちゃんコーナー」で石鹸洗剤やお魚料理を紹介し、他に「お魚タッチプール」、「お魚ゲットチャンス」(重さ当てクイズ) のコーナーは子供達の人気を集めていた。また、県下の農産物・地酒・陶器等いろいろな特産品が販売され大盛況であった。

なお、来年の第 23 回大会は 10 月 5 日、島根県浜田市で開催される。



「ながさきのブランド魚」即売コーナー